

みんなの環境

第43号 2018年12月15日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

主要農作物種子法が廃止されました!!

関連の学習会・講演会を開催します

平成30年4月1日主要農作物種子法（いわゆる種子法）が廃止されました。これはコメ、麦、大豆という三大主要農産物の安定供給を図るために60年以上に亘って私たち日本人の食を守ってきた重要な法律を廃止し、欧米のグローバル企業に種子支配の門戸を開くというものです。同時期に農薬の使用基準も緩和され、水道事業も民間に開放されることが現実になってきました。

そこで、まず種子法廃止に伴う様々な問題点や危惧されている種子の支配、食の安全について皆で学び、一人ひとりが“種子問題”をとおして身の回りで起きている企業による命の支配などを考える一助にしたいと思います。

*

その第一弾は1月25日（金）印鑰智哉（いんやく・ともや）氏を招いて会員向けの学習会、第二弾は2月16日元農水大臣・山田正彦氏による一般向けの講演会です。

詳細はつぎの通りです。皆さんの参加をお待ちしております。



イラスト：櫻井進六

- ① 「種子と食をめぐる世界と日本の動向」学習会（会員対象）
講師 印鑰智哉氏（日本の種子を守る会事務局アドバイザー）
日時 平成31年1月25日（金）13:30～16:00
会場 アミューあつぎ ルーム602
参加費 500円（資料代他）
主催 あつぎ環境市民の会

- ② 『「主要農作物種子法」廃止による生産者・消費者への影響を考える』講演会
講師 山田正彦氏（弁護士、元農林水産大臣、日本の種子を守る会顧問）
日時 平成31年2月16日（土）14:00～16:00
会場 JAあつぎ本所 4階大会議室
参加費 無料
主催 TPPとグローバリズムを考える市民の会
共催 JAあつぎ/あつぎ環境市民の会

「あつぎこどもの森公園」自然の保全と再生

* 青砥航次



バッタ類の生息に合わせた草刈り



水辺の生き物調査隊

あつぎこどもの森公園は 2016 年 3 月に開園して今年 3 年目になる。

開園前の設計段階では、仮称「健康こどもの森」となっていて、山あり谷ありの環境で遊びながら身体を鍛えるところというコンセプトだった。

公園にする計画の前、国体のテニス会場にということだったが、猛禽類のオオタカが繁殖していることがわかり厚木市は土地を取得したものの長く手つかずのまま放置していた。このことで里山

としての荒廃はさらに進んだものの、アメリカザリガニのように自然を壊す要因を持つ外来生物の侵入もなかった。

厚木市は公園建設にさいして生物調査をした。また現場を知る市民の指摘もあり、ここがオオタカのみならず、神奈川県絶滅危惧種のホトケドジョウやアカハライモリが生息するなど生き物の豊かなところであることが明らかになった。

厚木市は 2013 年に策定した「生物多様性あつぎ戦略」で、里地里山の保全と再生への取り組みとしてこの公園の整備を取り上げた。

時を同じくして、神奈川県自然保護協会が自然を守るための指針として県内の生物多様性ホットスポット選定を進めていたが、ここもそのひとつ

に選ばれた。

以上の事から、公園の整備に自然の保全と再生が大きな位置づけをもつことになった。

建設事業が進む中で、学識者を交えたワーキンググループがつけられ、その意見により可能な限り見直しが進められた。大きなものとして 2 基作るはずだったすべり台は 1 基になり、作るはずだった東側の山を一般の利用者が入れないサンクチュアリーとした。

開園後、市民ボランティアによる「あつぎこどもの森クラブ」ができ活動している。クラブの中に自然プロジェクト部会があり、自然観察会運営や自然管理に関わっている。

ヨシ原を田んぼに復元したところ、30 年来姿を見なかったミズオオバコが埋土種子から芽生えてピンクのかれんな花を咲かせたり、水環境の変化により繁殖するトンボの種類が爆発的に増えたり等、ホットスポット選定時以上に豊かな自然が戻っている。

この環境を利用して、「水辺の生き物調査隊」を募集し親子で年 10 回の調査活動を行い好評である。

園内「くぬぎの丘」は見晴らしの良い草原が広がっている。今年から秋の草刈りにあたり周辺部を 30 cm の高刈りにして、草の茎に産卵して越冬するバッタ類の生息環境を保全することにした。

今後も園内の自然を生態系として捉え、動植物の生育、生息状況を最適にする管理のあり方を追求していきたい。

* (あおと・こうじ あつぎ環境市民の会、神奈川県自然保護協会 厚木市林在住)

ソーラークッカーの知識ひろがる。荻野公民館祭りへ出展

* 不破穰一

今年の夏は例年と比べてもかなり厳しいものがあり、大きな台風など異常気象も頻発、地球温暖化が待ったなしの状態であることを、感じた年でした。

この状況下で11月18日の厚木市荻野公民館まつりに3年続けて、ソーラークッカーと関連パネルを展示し、これを用いて温暖化対応の必要を訴えました。概略200人ほどブースに寄って下さり、訴えに耳を傾けていただきました。出展はそれなりの成果があったものと思われま



地球温暖化防止対策に貢献するソーラークッカー

I. 出展機種

水平自動追尾クッカー3機種 (a.真空ガラスチューブタイプ、b.パラボラタイプ (カルピカ)、c.サンオープンタイプ)、さらにマニュアル追尾型クッカー1機種 (これは工房あまねの量産機「カルピカ」) の4機種4台を展示。

II. 展示パネル

3グループ8枚。グループ1は地球温暖化と、その対応活動についてのもの。グループ2はソーラークッカーとその効用について。グループ3は展示機材の説明。

III. 天候と調理実演

午前中から午後にかけての天候は、ほぼ予報通りで曇り時々晴れのソーラークッカーを使用するには不適な天候であり、一部の調理しかできなかつた。パラボラタイプによる湯沸かし (70°~80°C位迄) と、VGP方式による焼きさつま芋。一部の来訪者にはお茶や焼き芋をふるまい好評だった。

IV. その他

展示ブースを近隣の小学校の校長先生が訪問。ソーラークッカーを子供の教育に使用したい旨の申し出があり、いつでも対応させてもらおうと回答した。

来訪者がソーラークッカーについてある程度知識を持っている方の多いのに気づいた。各所でソーラークッカーのPRが行われている結果かと思われる。

* (ふわ・じょういち あつぎ環境市民の会、ひまわりソーラークッカー研究会 厚木市鳶尾在住)

「あつぎ市民発電所」 完成に向け始動しました

あつぎ市民発電所
理事長 遠藤睦子

2月3日10時から厚木南公民館集会室で、会員の皆様と基金拠出いただいた方々へ進捗状況報告会を行います。当日入会希望の方もご参加いただけます。

地球温暖化防止と脱原発をめざし、市民の手で再生可能エネルギーの発電を広げていこう、と今年の7月に「一般社団法人あつぎ市民発電所」を設立しました。

太陽の恵みを畑の作物と発電で分かち合うソーラーシェアリングの第1号機を飯山の畑に設置します。140名を超える市民の皆様のご賛同と資金協力を得て、来春の完成に向けて準備を進めています。

効果的かつ低コストの環境教育実践事例 in Japan

厚木市からのレポート

オーストラリア環境教育学会で発表 2018.10.24

* 高田 浩

「この活動は幾らだったでしょう？」と私が述べると毎回、「2ドル!」、「10ドル!」等と参加者が反応。私が答えを示すと、「オオー」。笑い声も出ました。これは、私が横浜国立大学大学院生（博士課程/環境法）としてオーストラリア環境教育学会で発表した際の様子です。

プレゼン後、質問というハードルがあります。しかし、受けた質問は、「教員に環境教育の機会はあるか？」であったため、答えることが出来ました。

発表内容は、これまで実践して来た7つの実例紹介です。環境教育の領域は広いです。特定外来生物オオキンケイギク駆除や広町公園（荻野）における絶滅危惧種ミクリの間引き、スマ報（画像投稿システム）はもちろん、外交官や留学生による小中学校における特別授業や文部科学省職員による厚木市教委へのレクチャー等を紹介。最後には、地方自治体において、私が目指す環境教育の制度設計にも触れました。

参加者は、オーストラリアの他、欧米や南米、アジア、オセアニアからも来ていたものの、日本人は私だけでした。高校生らが世界最大のサンゴ礁・グレートバリアリーフ（豪州クイーンズランド州）においてゴミ拾いを行っている事例紹介等もありました。

私は様々な参加者に環境教育の制度をインタビューしました。日本において、環境教育の制度設計は、確立されていない領域です。厚木市はすぐにトップランナーになれます。今回得た知識も参考に、日本全国のモデルとなる教育支援制度の構築を研究して行きます。

詳しくは、こちらへ。 <http://www.hiroshi-takada.com/181024.html>



* (たかだ・ひろし あつぎ環境市民の会、厚木市鳶尾在住)

「あつぎ環境市民の会」入会のご案内

あつぎ環境市民の会では想いを共有する仲間を募集しています。入会ご希望の方は下記あてお問い合わせください。

問い合わせ先：〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷（さぎたに）方 あつぎ環境市民の会
電子メール：pxa05613@nifty.com

会費：年会費 1,000 円 郵便振替口座: 00200-7-132779 加入者名: あつぎ環境市民の会

みんなの環境 第43号 2018年12月15日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上允 / 制作 長岡恂
e-mail : mkt.inoue117@gmail.com

事務局 〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷雅敏方
e-mail : pxa05613@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 1000 円)

(C)あつぎ環境市民の会 2018